

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3873900488		
法人名	吉田興産有限会社		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2 (電話) 0895-45-0125		
管理者	勇 裕子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年7月8日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.5人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ (昼食代に含む) 円
	または1日当たり 円		
(3) 利用者の概要 (平成21年2月1日現在)			
利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	9 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 95 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 (あり)・なし	指定認知症対応型通所介護		
届出 (あり)・なし	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の重度化に伴い、現在の思いの把握にはむづかしさもあるようだが、職員は、ご家族にこれまでのことをお聞きしたり、日々利用者にかかわる中の気付きを記録して、思いの把握に努めておられる。職員は、ご本人の「うなずき」一つにも思いを汲み取ることができると話しておられた。
 通院の帰りみち、ご本人が暮らしておられた地域をぐるりと回ってみることもある。
 近所の方からの野菜のおすそ分けや、事業所の畑で収穫した野菜をおいしく食べるために、利用者と一緒に献立を考えたり、利用者の中には、調理の下ごしらえや片付けを職員と一緒にされる方もいる。利用者ご自身で食べることを支援されており、食材を手でも口に運べるよう、おにぎりにされている方もあった。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

・前回の外部評価後、担当職員が利用者個々の日々の様子を毎月まとめ、ご家族へ報告する取り組みを始められた。職員は、利用者をよく観察するようになり、取り組みを重ねることで以前のご本人の状態等を知るアセスメントとしても、役立っていると話しておられた。

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

・「ケアに重点をおくように、PSWや福レクワーカーという専門職を事業所に取り入れる等して工夫している。」

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)

・昨年、半年間、運営推進会議の開催が遅れた。運営推進会議のメンバーからの要望で、利用者個々の状態等、個人情報を中心に報告されている。

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)

・毎月ご家族に送る「状態報告書」は、ご本人の様子がよく分かると喜ばれている。管理者は、毎月「状態報告書」をご家族に送るようになってから、ご家族との会話も増えたと実感されていた。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

・保育園や小学校の行事、地域の運動会等に参加されている。民生委員の方や小学校の保護者の方に事業所を見学いただいたり、事業所が主催する研修を受講いただいたりしている。近所の畑で野菜を収穫させていただいたり、クロッカーの道具をいただいたこともある。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム さくら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 勇 裕子

評価完了日 平成 21年 2月 16日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			福祉の基本的理念を軸に、入居者様、家族様の思いを尊重し、その人らしい人生を送れるような支援ができるように柔軟に取り入れ、そこで学んだことを職員が地域へ発信できるようにしている。		地元公民館に”さくらだより”の掲示をお願いしたり、交流会への参加を案内したり、地域連絡会議に出席しホームの取り組み等を理解していただいている。
			(外部評価)		
			施設長が事業所の理念を作成し、「人が人として生きられる」「利用者と共に生活を通してより豊かなものを求めていく」と掲げておられる。		さらに、貴事業所が地域の中にある「地域密着型サービス」として、どのようなことを目指していくのかということについて、話し合われてはどうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			理念や目標を具体化し、実行していくことから目につきやすい場所へ掲示することで振り返りができ、また活かし、実践できるようにしている。		
			(外部評価)		
			玄関に理念を掲示し、「笑顔と思いやり」「地域とともに」等、「わかりやすい言葉」で表し、各所に掲示されていた。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族様には面会時、少しの時間でも話し合いの場を持つことを心がけ、伝えている。 地域の方には、交流会やイベントの参加の他、運営推進会議を通して、事業所の実践内容を伝えている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの立地場所から隣近所が少し離れているが、散歩や買い物に出かけ挨拶を交わしたり、地域の公民館に働きかけ交流会の案内をしていただいたり、日頃からふれあう機会を作っている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 保育園、小学校、行事等、地域の活動に積極的に参加している。地元の方に野菜をいただいたり、小学生との交流会も恒例となっている。保護者の方の参加も多くなり、ホームのことをよく理解して下さっている。 (外部評価) 保育園や小学校の行事、地域の運動会等に参加されている。民生委員の方や小学校の保護者の方に事業所を見学いただいたり、事業所が主催する研修を受講いただいている。近所の畑で野菜を収穫させていただいたり、クロッケーの道具をいただいたこともある。		
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員は地域の交流会等に定期的に参加し、事業所での実践を通して、認知症ケアの啓発に努め、独居の方の家族様からの相談にも出来る限りの助言や支援をしている。		小学校の保護者の方が介護について研修を予定されている。続いて、地元の民生委員の方が研修を予定されている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を全員で見直し、外部評価の結果を踏まえ、出来ているところ、改善が必要な事をスタッフ会議等でも話し合い、ステップアップにつなげている。 (外部評価) 「ケアに重点をおくように、PSWや福レクワーカーという専門職を事業所に取り入れる等して工夫している。」前回の外部評価後、担当職員が利用者個々の日々の様子を毎月まとめ、ご家族へ報告する取り組みを始められた。職員は、利用者をよく観察するようになり、取り組みを重ねることで以前のご本人の状態等を知るアセスメントとしても、役立っていると話しておられた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			会議であがった疑問や課題を改善の方向へ意識づけができるように話し合い、入居者様のサービス向上に活かしている。また、入居者の家族様が新しく加わり、より一層会議の重要性が高くなった。		
			(外部評価)		
			昨年、半年間、運営推進会議の開催が遅れた。運営推進会議のメンバーからの要望で、利用者個々の状態等、個人情報を詳細に報告されている。		今後は、会議を2ヶ月に1回開催する予定である。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			運営推進会議を通し、担当者との関係づくりが少しずつでき、ホームの要望や疑問点にも前向きに考えてくださっている。ホームの実情に合った助言や、他ホームとの連絡会も開いていただいている。		
			(外部評価)		
			月1回、行政、医療と福祉の関係者が集まり、情報交換をされている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			スタッフ会議で課題にし、学んでいる。資料も目につきやすいところに掲示していつでも学べる体制にしている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			スタッフ会議やカンファレンス等で毎回、介護の姿勢を話し合い、"馴れ"が虐待に結びついていないか確認し防止に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容は丁寧に説明している。家族様の要望や不安等を十分に話し合い、ホームの考え方や取り組み、起こりうるリスク、重度化への対応、医療連携体制等詳しく説明し、一つずつ同意を得るようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様の日々の言動から、思いや願いを感じ取れる努力をし、職員全体で共有し話し合い、入居者様中心のケアに活かせるようにしている。また、第三者の窓口機関を見えやすい場所に掲示している。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎日の生活状況を状態報告書にまとめ、1ヶ月単位で定期的に送付している。その他、入居者様の状態に応じて今まで通り、電話、FAX、手紙での報告もしている。受診ノートの記録の説明や確認サインもいただいている。		職員の異動については、面会時の報告だけなので定期的に報告をしていく。
			(外部評価) 毎月ご家族に送る「状態報告書」は、ご本人の様子がよく分かると喜ばれている。又、個別にアルバムを作り、面会時に見て頂いたり、遠方のご家族には写真入りハガキを送ることもある。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様には訪問時、どのような些細なことでも言っていただけのような雰囲気作りを全職員で心がけている。意見や要望が出れば、すぐに職員会議で話し合い、出来る限り反映させられるようにしている。契約時や機会があるごとに、外部に相談窓口があることも説明し、ご意見を伝えていただくように努力している。また、ご意見箱も設置している。		
			(外部評価) 管理者は、毎月「状態報告書」をご家族に送るようになってから、ご家族との会話も増えたと実感されていた。		ご意見をいただきにくい方に対して、ご家族の心情を踏まえて、意見を引き出せるような取り組みを工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会議で意見交換をし、要望を聴き、それに応じての個別の面談をしたり、日頃からコミュニケーションを図れる関係づくりをしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者様一人ひとりの変化や、家族様の要望に対応できるように職員の力が最大限発揮できるようにしている。また、管理者はいつでもサポートできるような勤務体制を考えている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニットを全体と考え、入居者様、職員が自由に行き来し相互に馴染みの関係をつくり、情報も共有している。異動や離職があっても入居者様一人ひとりにすぐに対応できるように心がけている。		
			(外部評価) 職員の個性等も踏まえて、ユニット間で異動することもある。異動した場合、利用者が会いに来られたり、職員が顔を見せに行かれることもある。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型のサービスの実践力を身につけていくために、職員が順次、運営推進会議に出席し日々の体験を学びにつなげていくように報告する機会を設けている。外部研修受講についても自由に参加できるようなシフトを組み、スキルアップにつなげている。スーパーバイザーである施設長にも福祉の方向性やアドバイスを受けている。		
			(外部評価) 職員一人が年2回は外部研修を受講できるよう、すすめておられる。又、採用前には3日間の研修を行い、採用後、施設長を中心にフォロー研修を行っておられる。又、外部から講師を招き、「救急救命法」や「AED」の知識や技術を勉強されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			県連絡協議会の研修会や地域包括支援センターの協力を得て、地域の事業所での連絡会も開催され、他のGHとの交流を通じ、そこで得た情報から質の向上へとつなげていくように活かしている。		
			(外部評価)		
			近隣のホームとは、それぞれの行事時行き来する等、利用者もともに交流されている。昨年町内の連絡会が発足し、町内の「地域密着型サービス事業所」が集まり、意見交換をされている。県GH連絡協議会の職員研修にも参加されている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			日常の様子から職員のストレスや悩みを把握できるように努めている。個人面談をしたり、気分転換ができる場所を設けている。希望休についても、心身のリフレッシュができるように確保している。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			運営者は現場でともに働いているので、状況等をよく知っており、職員の努力や成果を把握し各自の能力にあった環境づくりをしたり資格取得に向けた支援をしている。		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			相談があった時は必ず本人と会い、心身の状態や思いを受け止め、何より職員が本人に受け入れてもらえるような関係づくりに努力している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族様の話をゆっくりと聴き、苦労や今困っていること、望んでいることを理解し、それに対してどのような対応ができるか、本人同様の信頼関係が築けるように努力をしている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談者の話しの中から、状況等の把握をし、何が今必要なのかを考え対応し、場合によっては他の事業所を紹介したりサービスにつなげている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に事前の見学から案内し、相互の情報を交換し、安心できる雰囲気作りを行っている。急な場合は、本人の不安を少しでも軽減できるように一緒に食事を摂っていただいたり宿泊できる環境も整えている。 (外部評価) 入院先からの入居が多く、管理者がご本人に会いに行き、見学に来ていただくように勧めておられる。入居間もない頃は、ご家族と一緒に食事をしていただいたり、職員が関わる時間を多く作り、ご本人が安心できるよう、気配りされている。		訪問、デイサービス利用で馴染みの関係を作り、柔軟に支援ができています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の思いに寄り添い、ともに感謝する気持ちを学びその人らしく個性や力を発揮できるように支援し、自信につなげている。そして、必ず人生の大先輩であることを念頭に置き、介助する態度や言葉に注意している。 (外部評価) 職員は、整理整頓が上手な利用者から「人間には心の整理整頓が必要」と教えていただくこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者様の日常を細かく報告し、職員の思いも伝えることで、情報交換ができ、本人に今一番大切なことが何か、支えていく関係づくりができています。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族様の思いを受け止め、より良い関係が継続できるように努めている。外出、外泊、受診で家族様と一緒に過ごすことを勧めている。また行事の誘いは、キーパーソンの家族様だけではなく、出来る限り多くの家族様に案内するように心がけている。		手紙をご自身で書き、遠方の家族様へ出すことにより、一層の関係ができています。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容室に送迎する入居者様や他施設に入所している御姉妹を行事等に案内したり、見慣れている風景など、季節に応じ出かけていけるように支援している。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事やお茶の時間を職員も共有することで会話を多く持つように心がけ、心身の状態や気分を把握し、入居者様同士の関係がうまくいくように調整、支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の事業所へ移られた方にもお手紙を出したり、家族様の相談にのり、また、運営推進委員も引き続きお願いし関係を断ち切らず付き合いを大切にしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの言動、行動、表情から思いや願いを一つでも多く汲み取り、情報を職員で共有し、話し合い、本人らしい暮らしの継続ができるように家族様とともに考え実行している。</p>		
			<p>(外部評価) 利用者の重度化に伴い、現在の思いの把握にはむづかしさもあるようだが、職員は、ご家族にこれまでのことをお聞きしたり、日々利用者にかかわる中の気づきを記録して、思いの把握に努めておられる。職員は、ご本人の「うなずき」一つにも思いを汲み取ることができると話しておられた。</p>		
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価) 家族様の許可が得られる場合は、自宅を訪問し暮らし方や生活環境を把握し、また、本人の言葉や家族様等から少しずつ情報がいただけるように信頼関係を築いている。</p>		
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価) 身体状況に関わらず、一人ひとりの生活のリズムを観察し、思いこみをなくし、職員全体で情報を共有し、話し合い、有する力を一つでも引き出せるように努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者様の重度化に伴い、身体ケアが中心になる一方で本人、家族様の思いや願いを何度も話し合い確認している。そして職員全員で理解し、意見交換、アイデアを出し、少しずつ心のケアもできるように計画を作成している。</p>		<p>さらに、「人が人として生きられる」「利用者と共に生活を通してより豊かなものを求めていく」という理念にも立ち戻り、介護計画について職員で話し合われてみてほしい。利用者主体のケアを実践していけるような計画の作成が期待される。</p>
			<p>(外部評価) 事業所では、自己評価で日々のケアを振り返る際、「利用者の重度化に伴い、計画内容が身体面のケアを重視した計画になっているのではないか」と振り返られていた。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			取り組み状況を日々の記録で確認できるようにしている。入居者様の入退院等、期間が終了する前であっても状態が変化した際には、職員全体で情報を集め、本人、家族様の要望に応じて柔軟に見直している。		
			(外部評価)		
			3ヶ月・6ヶ月と期間に沿った見直しをされている。又、入退院等、ご本人の状態に変化のあった場合には、その都度介護計画の見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			ケアの実践で、職員が工夫したこと、気づいたこと入居者様本人の行動や言葉、状態を多く記入するように心がけている。職員間の情報共有を徹底し、計画作成担当者を中心に全員で見直し、評価をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			本人や、家族様の状況に応じ通院や送迎等の必要な支援は出来る限り対応し、安心を提供できるように努力している。予定日以外の通所や延長サービス等も臨機応変に対応している。		
			(外部評価)		
			通院の帰り道、ご本人が暮らしておられた地域をぐるりと回ってみることもある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員の研修、見学、小学校との交流会は恒例になり定着してきた。また、ボランティアの要望にもすぐに対応して下さったり、災害時等の勉強会などでは消防の方とも少しずつ馴染みの関係が築け、地域資源の協働が広がっている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 居宅支援事業所と交流をもったり、自事業所で行っている訪問介護サービスとの交流にて、本人にとってより良いサービスの検討をしている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域のサービス事業者との交流、福祉に関する情報の交換、協力関係ができています。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ホームの協力医療機関の他、入居前からのかかりつけ医の受診も本人の希望や体調に応じて家族様と相談しながら対応している。病院は固定せず、複数の病院と関係を密にしている。看護師の方の助言も受けている。受診ノートを個別に記録し、家族様に詳しく説明し内容に応じ、医師とのパイプ役もやっている。 (外部評価) 協力医やご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医に、職員は通院時同行されている。個別に受診ノートを作り、受診の様子を記録し、ご家族に報告されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 地域の老人医療に熱心な内科医師が本人や職員の話をよく聴いてくださり、指示や助言をいただいている。また、希望に応じて、他の病院もすぐに紹介していただいている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員と介護職員とは常に連携をとり、健康管理や病状、投薬の知識等を気軽に相談できる。看護ノートも作成し、全職員で入居者様の情報を共有している。また、受診を通して関係づくりが行えている看護師にも助言をいただいている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、本人への支援を家族様の同意のもとに介護サマリーにして情報を医療機関に提供している。頻りに状態を見に行き、家族様と情報交換しながら回復状況に応じ、早期退院し事業所内で対応ができるように連携支援している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化や終末期に事業所が対応し得る最大のケアについて説明し確認をとっている。状態の変化があるごとに必要時には、家族、医師、看護師、職員を交え話し合いを行い、家族様の気持ちや思いに注意を払い支援している。 (外部評価) 事業所の看取りの指針を示し、入居時及び必要に応じて説明されている。ご家族から「入院せずどこまでホームで見てもらえるか」というような質問もあり、看護師資格を有する職員の数や往診、訪問看護の体制等を説明された。		ご家族とも話し合いを重ね、協力し合ってご本人を支えていけるよう、今後も体制作りをさらにすすめていかれてほしい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族様の思いを大切にし、職員の力量等も踏まえ、事業所でできる最大限の支援に取り組み、急変の場合はすぐに対応してもらえるよう医師と信頼関係を日頃から築いている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 新しい事業所でも今の暮らしが継続できるように、家族様の同意のもと、支援内容、本人の状況、そして何より職員が長い間受け止めていた本人の思いをきめ細かく提供することを心がけている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 入居者様に対する言葉かけや態度をいつも会議の場で話し合い、職員の意識の向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが確認し、環境の配慮や一人ひとりのプライバシーの確保を徹底している。</p>		
<p>(外部評価)</p>			<p>トイレに誘う際、職員は、声かけに気配りされているが、トイレのドアはカーテンのみの対応の場合もある。運営推進会議時、利用者の個人情報の詳細についての報告や、配布書類について配慮が必要な点もある。</p>		<p>事業所内の環境や職員の利用者への対応等についても、この機会に点検されてみてはどうだろうか。</p>
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりに合わせた言葉かけをし、本人の思いや願いを言葉だけに限らず、表情からも読み取り、また相談等でも対応している。たとえ一つでも、自己決定ができるようにチームワークケアに努め、支援している。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 重度化に伴い、一人ひとりの体調に気を配りながら、本人のペースに合わせ、職員同士が工夫し柔軟に支援している。また、日々の入居者様の状態に応じ、買い物や、散歩等の活動の場を多くもつように心がけている。</p>		
<p>(外部評価)</p>			<p>前日、眠りにくかつ方には、朝、遅めに食事を用意されたり、個々に合わせて時間をずらし支援されている。調査訪問時の昼食後、職員は、ソファで過ごすか居室で休むか、利用者にかがいがいながら支援されていた。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの状態や生活習慣に合わせ支援している。本人の馴染みの美容院で希望に合わせた毛染め、カットをしてもらえるように連携をとっている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みを聴いたり、季節感を楽しむことも見つけるようにしている。自分のペースで食事ができるように工夫したり、体調に合わせて食事時間をずらしたり、環境を変えたりしている。職員も同じテーブルにつき、楽しく食事できるように心がけている。 (外部評価) 近所の方からの野菜のおすそ分けや、事業所の畑で収穫した野菜をおいしく食べるために、利用者と一緒に献立を考えたり、利用者の中には、調理の下ごしらえや片付けを職員と一緒にされる方もいる。利用者ご自身で食べることを支援されており、食材を手でも口に運べるよう、おにぎりにされている方もあった。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が好きな物をできるだけ毎日楽しめるようにしている。特に夕食後のコーヒーは皆様の楽しみの時間となっている。甘い物等の好物を職員と買いに行ったり、好きな時間に楽しめるよう、居室で管理できるように注意を払い支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) おむつや紙パンツを使用している場合でも、チェック表を活用し、時間を見計らいトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。トイレの場所が分からない入居者様は、排泄サインを見逃さないように全職員が心がけ失敗を少なくするように対応している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			入居者様の希望や体調に合わせて入浴していただいている。自立の方は、大きな浴槽でゆっくりと、車いすの方はリフト入浴で安全に入浴ができるようにしている。		
			(外部評価)		
			入浴に気がすまない利用者には、タイミングをみて、職員も代わって声かけされている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			一人ひとりの行動や体調、習慣や希望を考慮し、いつでもゆっくりと休息できるように支援している。夜間、寝付けない時は、手を握り寄り添ったり、温かい飲み物を一緒に飲んだり会話をしたり、その人に合った工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			毎日の家事や畑仕事、お茶作り、おはぎ作り等、入居者様の経験や知恵を発揮できる場面を作り、感謝の言葉を伝えるようにしている。楽しみごとや気晴らしは、入居者様と相談しながら本人主体になるように支援している。		
			(外部評価)		
			利用者は、洗濯物たたみやモップ掛け、朝夕のカーテンの開け閉めやカレンダーをめくる等、それぞれに役割がある。お孫さんに手紙を書いたり、事業所に来る移動パン屋でパンを買うことを楽しみにされている方もある。玄関のしいたけの原木から利用者が直接収穫されている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			家族様の協力を得て、いつでも使えるように少額のお金を全員、マイバックに用意している。定期受診等の外出時には必ず持参し買い物ができる工夫をしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			天気や本人の体調を考慮して、散歩に出たり、外で食事を摂ったり、季節を感じると同時にストレスを溜めない工夫をしている。重度の方でも順次に外出する機会をつくっている。		
			(外部評価)		
			暖かくなると庭に出たり、通院の帰りに買い物に立ち寄ることもある。現在は、介護度重度の利用者も多く、日常的に外出することがむづかしいという面もある。		利用者が最期まで、地域社会とかかわりを持ちながら暮らし続けられるよう、理念にも基づき支援に工夫を重ねていかれてほしい。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			家族様の協力や承諾を得て、計画を立て、職員の勤務を調整するなどし、できる限り支援につなげている。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			入居者様の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。プライバシーにも配慮し、居室で会話できるように子機を使用している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			いつでも気軽に来ていただけるように、雰囲気作りに心がけ時間の制限もしていない。また、気兼ねなく過ごしていただけるように訪問者用の部屋も用意している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会議等で毎回取り上げ、全職員が正しく理解し、ケアの振り返りや、自覚しない身体拘束につながっていないかを確認している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者様一人ひとりの行動や気分を見守り、観察し職員が連携し、一緒に歩いたり声かけを行い、安全に配慮した自由な暮らしを支えている。 (外部評価) 「事業所の中からそとへは自動ドアで利用者は自由に出入りされており、表の道に出るゲートは日中開けておられる。」		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は入居者様と同じホールで作業をしながら、全体の状況を見守っている。夜間は、全員の入居者様が、見通せる場所に机や椅子を配置し巡回時以外にも起きてこられた場合はすぐに対応できるようにしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者様の日々の状態に応じ、注意を促したり、保管や管理が必要なもの等に分けている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 申し送りや、記録、会議等で職員が共有意識をもち、一人ひとりの状態から予測される危険を検討し事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力で救急手当や蘇生術の研修を実施したり、看護師による応急手当の指導を全職員が受け対応できるようにしている。また、入居様の急変時に対応できるように事業所にはAEDを設置している。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得たり、マニュアルを作成し全職員が対応できるように、繰り返し訓練を実施している。運営推進会議を通して、地域への協力もお願いしている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を行っておられる。又、AEDを職員全員が使えるよう、消防署に協力をいただき講習会をされている。地元消防団との協力体制があり、車椅子の方の居室入り口にはマークを付けて、外部者が救助する際にも分かるようになっている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日常に起こるリスクを状況の変化に応じて細かく家族様に説明し、抑圧感のない暮らしからあらわれる入居者の表情や力の発揮について理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を職員が把握し、排泄や食欲、顔色、体調の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。気づいたことがあれば、すぐに主任、管理者へ報告することで連携をとっている。そして、職員間で対応し状況により受診につなげている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、処方箋で目的や副作用を職員が内容を把握している。薬の処方が変更されたり、本人の状態変化がみられる時は、状態のその都度、看護師、医師に報告、相談している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の乳製品の摂取や食事、水分補給の工夫、そして散歩や適切な運動を働きかけている。それでも困難な場合は、排泄管理をし医師に相談し自然な形で排泄ができるように服薬をしている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を全職員が理解し肺炎予防の点からも、入居者様の力に応じた歯磨きの支援をしている。口の中を他人に触れられる入居者様の気持ちにも配慮している。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取状況を毎日チェックし、記録に残し職員間で情報を共有し対応している。むせたり、飲み込みが悪い入居者様には調理の工夫をしたり介助する方法や時間を工夫し、家族様と相談している。本人にとって美味しいもの、好みのものを食生活に柔軟に取り入れるように支援している。 (外部評価) 日々の食事の献立は、栄養士資格を有する職員が栄養バランスに注意し、チェックされている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症について看護師に知識や情報をもとめ、全職員が学習し早期発見、早期対応を心がけている。インフルエンザ予防接種は入居者様、職員ともに受けている。手洗い、消毒もこまめに行うように意識づけしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>台所、調理器具の清潔、冷蔵庫もチェックし衛生を保つように職員で取り決め実行している。食材の点検、掃除を頻繁に行っている。食中毒が発生しやすい時期は火を通す料理を中心にしている。</p>		
<p>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ゆとりのある駐車場を用意している。明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり、お雛様を飾ったりすることで季節感を演出している。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>季節を感じる花や、くつろげるソファや家具の配置、日常生活にともなう炊事の音やにおいを意識的に取り入れる工夫をし、安全を確保しプライバシーにも配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お雛様や桃の花が玄関や居間に飾られてある。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関先やホールに椅子やテーブルを置き、一人や仲の良い入居者様同士でお茶等を楽しめる工夫をしている。ひなたぼっこ等ができる東屋もある。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			プライバシーを大切に、本人、家族様と相談しタンスやベッド以外にも馴染みの物などを生活や状態に合わせて用意している。		
			(外部評価)		
			利用者の中には、入院先から入居に至るケースが多いため、ご家族に使い慣れたものを持ってきていただくようお願いされているが、新しいものを買ってこられることも多い。仏壇や鏡台等を持ち込まれている方もある。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			入居者様の状態を観察しながらこまめに室温調整や換気をしている。特にトイレ等の臭いのでる空間は清潔を心がけている。各居室の配慮も一人ひとりの体調に合わせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			階段、廊下、浴室、トイレの手すりは入居者様の状態に合わせ、上手に活かし安全とりハビりに活用している。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			動きがスムーズに進むとき、混乱や失敗が続く時を全職員で話し合い分析し、状態、状況に合わせ環境整備に努めたり、本人の不安を取り除きわかる力を取り戻せるように支援する。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			庭に植物を植えたり、畑のスペースを確保し車いすの方も東屋でお茶やおやつを楽しんだり、空気や景色を楽しめるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の暮らしの中から、言動、行動、動作、表情から色々な思いを汲み取り、申し送りや職員会議、記録等で職員が共有し家族様とともに考え実行している。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	家の生活の延長のように夕食が終わり1日の片付けが終わると、美味しいコーヒーや紅茶を入れ、10分でもとにもくつろげる時間を入居者様が楽しみにし、職員が提供することが定着している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度化に伴い、決まり事の中では生活ができにくくなっている入居者様が多くなり、一人ひとりの体調に気を配り、食事の時間、起床の時間、入浴等、希望に沿って支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全職員が一人ひとりの情報を共有し、入居者様から接し方を学んだり、おはぎ作りやお茶もみ等を習い、本人の力量に合わせ、自信につなげていける環境づくりをし、支えあう関係を築いている。笑顔を引き出すことを心がけている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の訴えには出来る限り対応している。車いすの方であっても四季を感じていただけるようにドライブに出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者様の食事、排泄、水分補給等日々の暮らしぶりを記録にし、全職員が情報を共有し、必要に応じ看護師、医師と連携をとり安心して生活ができるように支援している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況に応じて通院や送迎等必要な支援は出来る限り対応し安心を提供できるように努力している。デイサービスも始め、GHを安らぎの空間として利用されレクや入浴、畑仕事を楽しみに来られる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	毎月、入居者様の状態報告書を送付し、変化があった時はその都度報告をしている。訪問時意見を出していただくように働きかけたり、来訪の多い土、日に主任や管理者が出動し、話し合いができる機会を設けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ② 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	民生委員の研修や小学生の交流会等、恒例となり、野菜を届けて下さったり、畑を手伝って下さったりと、気にかけてくださる方が増えた。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) ② 1 大いに増えている 2 ② ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	ホームの交流会への参加やクローカーの用具をいただいたり、ボランティアグループの交流と応援者が増えている。
98 職員は、生き生きと働けている	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての職員が 2 ② ② 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	資格を取る目的意識を持ち、また、外部の研修でスキルアップを図る職員が少しずつ増え、会議等においても入居者様の支援等の話しが自然とでてくる。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 ② ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者様の思いや願いを把握し支援しているが、日常の業務に追われすぐに対応できなかったり、コミュニケーション不足があったりして不安にさせている時がある。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての家族等が 2 ② ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	はっきり意見を出していただく家族様ばかりではないが細かく連絡を取り面会の回数が増え、少しずつでも意見が聴かれるようになり信頼関係を築いているように感じている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・入居者様の意思を尊重し、家族様の思いや願いを理解し支援している。
- ・入居者様は人生の大先輩であるという意識を念頭に置き支援している。
- ・重度化しても、1日1回笑顔が引き出せる挨拶や言葉かけを全職員で意識し実行している。
- ・入居者様、家族様と職員がともに信頼関係ができるように努力している。
- ・四季の行事や、食事を取り入れ生活をしている。
- ・安心できる医療連携をつくっている。
- ・自然環境の中にゆったりとした生活空間のある施設。